

## 突発性難聴

2004年9月16日(木)

1年ほど前より難聴と耳鳴りで個人病院を受診。

検査が必要とのことで市立病院を受診。2ヶ月ほど入院して精密検査を行なうが構造的な異常はないとのこと。原因が分からないが現在も薬物療法を受けている。

音叉の検査では左がほとんど聞こえない状態。

アクティベータ治療で神経系のバランスを整え、さらに神経系を阻害している原因の開放治療を施す。治療後、メトロノームの最小の音で、左右を比較すると10段階で最初が0だとすると本人の主観的レベルでは7段階位まで回復したとのこと。

身体の構造的異常を追及する西洋医学では、このような治療法でその場で回復するなどとは考えられないことだろう。しかし、原因が正確に追求できれば様々な症状が改善されるのである。

この患者さんの原因は、やはり潜在的なストレスだった。少し話を聞いてみると、2年前にご主人をなくされた頃から体調が悪くなり、耳鳴り、難聴の症状がでてきたとのこと。

ストレス、心のバランスが身体に、神経系に、生命エネルギーに影響を及ぼしているのであって体の構造は何も問題がないのである。

病院では心にメスを入れることができない。

心の治療？

心なんて実体がないものを治療できるの？

当然のような質問がきそうだが、潜在意識という心の治療は可能なのである。

治療というのが適切かどうか分からないが、分かりやすく言うと、患者さんにその原因を気づいてもらい、潜在意識的に抑圧している感情を解放する手助けが我々のできる治療であり、自分で気づけば自然に解放され体調もよくなるが、自分で気づかないから病気を引

き起こすのである。

心の病と言うとなにか敬遠されがちになるが、心の病が起こらない人はほとんどいないといっても過言ではないくらい誰もが心のバランスが崩れては建て直し、また崩れては建て直ししながら人間として生きているのである。

その建て直しが自分でできるレベルであれば身体には影響を与えないが、それぞれの人がそれぞれに責任を抱え、問題を抱えながら生きているのであり、そのコントロールが上手くいかなくなることもあって当然であり、それが身体の変調として鏡のように表れているのである。

そんな心と身体の変調を身体の構造だけ診て良くなりますか？という当たり前の疑問が、現代ではまだまだ通用しないほど我々は西洋医学の概念に洗脳されているのである。